

平成30年

目黒区教育委員会

第44回定例会会議録

(平成30年11月27日開催)

第44回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成30年11月27日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会教育長	尾崎 富雄
	教育委員会教育長職務代行者	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会委員	後藤 幸子
	教育委員会委員	櫻井 道雄

出席職員	教育次長	野口 晃
	教育政策課長	山野井 司
	学校運営課長	村上 隆章
	学校施設計画課長	鹿戸 健太
	教育指導課長	田中 浩
	教育支援課長	酒井 宏
	統括指導主事	寺尾 千英
	統括指導主事	古舘 秀樹
	生涯学習課長	馬場 和昭
	八雲中央図書館長	増田 武

書記		小野塚 幸隆
		山東 隆博

(議事日程)

- |      |      |                                      |
|------|------|--------------------------------------|
| 日程第1 | 報告事項 | 平成31年度当初予算に係る主な要求項目について              |
| 日程第2 | 報告事項 | 平成30年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について |

資料配布

- ・平成31年1月行事予定

(午前9時30分開会)

- 教育長 第44回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。本日の欠席委員はございません。欠席職員は学校統合推進課長です。署名委員は後藤委員です。
- それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1 平成31年度当初予算に係る主な要求項目について(報告事項))

- 説明員 (資料により説明)
- 教育長 この件についてご質問等がございますか。
- 委員 体育館への冷暖房設置の経費ですけれども、4ページの整理番号28、29に記載があります。これは、例えば1校なのか、あるいは今後展開していくため、少しずつ何か装置を入れていくというものなのか。どういった経費なのでしょう。
- 説明員 この金額は、来年度1年間で全校に設置する想定で、リースで算定してみたという状況です。実際にその要求がつくかどうかはこれからとなります。
- 教育長 今回の予算の最大の目玉です。熱中症対策とICT関係の整備が金額的にかなり高額を占めておりますけれども、その具体的な工事のスケジュール等が、都の補助制度も、国の補助制度もまだ制度は明確になっていませんけれども、予算を組んだと公表されていますので、それをいかに活用して工事を順調に進めていくか。リースといっても配管が必要ですので、それがどの程度でできるかというのは、今、検討している段階で、さらに詳細は詰めていく必要があると思います。
- 委員 3ページ、学校ホームページの運用料ですけれども、学校によりホームページの運用の良し悪しが少し目立つという感じがありました。このホームページ運用料は全校が対象だと思いますけれども、その運用がうまくないと思われる学校への強力な支援が必要ではないかと思っておりますので、予算の配分の問題等があるでしょうけれども、区民の皆さんに見ていただけるホームページを目指していただきたいと思っております。これは要望です。
- それから、10ページにあります、11番の部活動合宿支援の拡充。金額は小さいですけれども、これは少子・高齢化のことも

あって、部活動が少し沈滞気味であると思われるような学校もあると思いますので、こういった支援をもう少し大きい金額で色々な部活動に適用されればいいのではないかと思います。今後、学校にアピールして、校長先生が積極的に合宿を行おうと思うような支援策を打ち出していただきたいと思います。これも一つの要望です。

○説明員 学校のホームページですけれども、基本的には同じ条件で学校で作っているのですが、それぞれ学校の先生方の知識のある、なしによって大分違いますし、それから、課外活動等へ行ったときに、校長先生が熱心に写真を撮られていて、リアルタイムで更新をされているような学校もあれば、後日改めて少ない枚数での写真の掲載等、温度差はあります。ICT支援員が各学校を回って、先生方の相談に応じて、ホームページの更新であったり、構築であったり、そういったものを指導いただいているのですけれども、なかなか、全校を回るのも時間がかかりますし、学校側も忙しい中で、知識のある先生、ない先生の差は少しあらわれてきていると思います。

それから、部活動指導については、夏休みに第十一中学校が八ヶ岳林間学園を活用し、そこを宿舎として、地域の運動場を借りて、さまざまな部活動を合同で合宿をする、その支援を行っています。

これは各学校で日程的に合い、八ヶ岳を活用していきたいということであれば、積極的に拡充していく準備はございますので、各学校でそういった準備をしていただければ、こちらの支援は拡充できる内容です。

○教育長 2点目ですけれども、中学校が中心になりますけれども、部活動支援に関わる拡充策として、単価アップ等いろいろされていると思いますけれども、平成31年度はどのように変わっていくのでしょうか。

○説明員 部活動指導員が導入されて、現在、試行的に行っていますけれども、国や東京都の補助単価の様子を見ながら、30年度、31年度の間、新たな単価の設定等について検討してまいりたいと考えています。

○説明員 補足説明をいたします。ご指摘のとおり、開かれた学校の推進、学校、地域、保護者との連携の観点からも重要であるということで、学校ホームページの充実をお願いしてまいりました。状況を

見ますと、毎日アクセス数が500回を上回る学校もございますが、大体が100回から150回程度のアクセス数です。その500回を超える学校は、昨年度から続いておりまして、4者による学校評価アンケートで「学校は子どもたちの様子をわかりやすく伝えている」が、90%の肯定的な評価を得ているということで、学校ホームページの充実が保護者の理解を促進しているということは間違いないと考えています。この夏も、夏季休業期間中を利用して幾つかの項目を確実に更新してくださいというお願いはしたところですので、改めて、各学校の状況等を把握しながら、近日中に学校評価アンケートの結果も出てきますので、これと照らし合わせながら次年度に向け、こういった指導、助言ができるのか、また支援ができるのかということを考えていきたいと思っております。

それから、2点目の部活動につきましては、これは長い間の経緯がございます。目黒区においても部活動合宿は保護者主催で行ってございました。そこに教員が加わるという形で、勤務があいまいな状態だったものですから、一律、区で行うという形にさせていただいたのが、平成20年度ぐらいだったと思っています。

そうした中で、区の施設を使ってほしいということで、八ヶ岳の林間学園、こちらを活用し、その周辺の体育館、あるいは、陸上競技場等のこういったところが使えるかというのを、教育指導課、学校運営課と一緒にあって施設を見学したという経緯がございます。部活動合宿に行くというところは、そこで練習だけを励むのではなく、対外試合もしたいという思いがありますが、なかなか対外試合が実現できないというところから、3校あったのが2校になって、2校になったのが1校になったというのが現実です。区の施設を使って区が主導で行っていくということには、限界があると感じています。

○委員 対外試合は、部活動の一つの基本で、こういった経験が子どもたちに強いインパクトを与えたいと思いますので、進めていただきたいと思います。3校が1校になったのは、聞いていて残念ですけれども、色々な形での支援として、合宿の場合は指導者の問題、対外試合を組めるかどうかの問題だと思っていますので、積極的にアドバイスしていただきたいと思います。要望です。

○委員 15ページの副校長事務補助員の配置で、520万余の予算がついていますけれども、これは何人で単価はどのぐらいを考えて

いるのでしょうか。

○説明員 副校長事務補助員の配置につきましては、東山小学校と東根小学校の大規模小学校に1人ずつを考えておまして、第1種報酬として18万円余を、2人分で12カ月分ということで予定してございます。そのほか、旅費、共済費をプラスしていくということで、基本的には18万円余の給与の中で事務補助をしていただくというところです。

○教育長 その他ご質問等ございますか。  
特にないようですのでこの報告を受けました。  
次に日程第2を議題とします。

(日程第2 平成30年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○教育長 この件についてご質問等はございますか。

○委員 7ページのA3の表ですけれども、これを見ると、小学校の5年生の算数で、区の10問未満の児童の割合が10.4%あって、それが中学校第2学年になると17.4%と、ほかの教科に比べると、増えてきていると思います。数学が習得できていない子が多いという印象があるのですけれども、たまたまこのときの試験問題がそういうことだったのか、今までのもこういう傾向だったのか、どういう分析をしていますか。

○説明員 ご指摘の数学につきましては、東京都との差が5.2ポイント、昨年度が4.6ポイント、28年度が7.3ポイントと、開きはほとんど変わらないのですが、中学2年生が17.4%だったのに対しまして、昨年度が14.7%、28年度が14.5%と、小学校の割合を大きく上回っている傾向です。

算数・数学につきましては、常に次年度の学習は前年度の学習の上に積み上がっていくという内容ですので、確実に習得していかないと次の内容が習得できないため、スパイラルで学習する必要があります。ですので、一人一人の学習定着度に応じた指導が必要だと考えております。

そういう意味で、小学校でも、全校において少人数展開、これは東京都からの加配が入っております。場合によっては、目黒区が学習指導講師をつけておりますので、さらにもう一つ展開をし

ているという学校もございますので、そういった中での少人数展開をしっかりと行い、子どもに合った指導を行っていくということが重要と考えています。

○委員

到達目標値の達成の児童の割合が都よりも区は伸びていて、かつ習得目標値の5問・10問未満の児童の割合が都よりも区は少ないということで、全体的に見れば、区の子どもたちはよくできているという印象かもしれませんが、公教育という観点から見ると、その5問・10問未満の生徒の割合をどうやって下げていくかということが重要になってくると思います。算数・数学に関しては、とても大きな問題だと感じています。

特に中学校に関しては、高校受験があり、高校に行く生徒がほとんどの中で、これだけ正答率が低い子がいるのは、大きな問題だと思っています。

例えば、この調査のときの、できなかった問題を子どもたちに戻ってやらせているのか。先ほど算数・数学は積み上げが大事だと伺いましたが、わからないものをわからないまま終わっていくから、次もわからないという状態だと思っています。少人数学習でも、全員のことを見てとれるわけではないと思います。その中でわからないところを拾って教えて、積み上げていくところが、ポイントになると思っていますのですけれども、事務局から何かアドバイスをしているのでしょうか。

○説明員

東京都の調査を実施した後に、その調査のできたところ、できなかったところを確実にその授業の中で確認しているかどうかということに関しては、実態は把握していません。

ただ、学校教育でできることというのは、限られています。1つは、授業の中でしっかりとした指導をしていくということです。例年7月に事務職員と、それから指導主事がペアを組んで各学校を回っています。そこで、この少人数指導がしっかりされているかどうか、そして、その少人数指導の実施状況はどれぐらいなのかを、2、3回に分けて調査させていただいています。その中で、一斉指導ではない机間指導を中心とした個別指導をするようにという指導もさせていただいております。

ですが、母数が減っても一斉指導をしているという状況がまだまだありますので、そこは少人数指導ですので、個に応じた指導をしていくようにというようなことの指導は引き続きしていかなければいけないと思います。

授業の中で最大限、個に応じた指導を行っていくというのが、一つのやり方だろうと思っています。その上で、例えば中学校では、放課後補習等をさせていただく中で、学習指導員を中心にフォローアップさせていただいたり、あるいは東京都でベーシック・ドリルを用意しております。これはスモールステップになっているドリルですので、このドリルを活用することで、子どもたちの苦手なところをクリアしていくというような、補習的な指導もさせていただいております。そういった取り組みを確実にやっていくということが、必要と思っております。

いずれにしても、この習得目標値未満の子どもたちを授業以外で救っていくということに重きを置いてしまうと、働き方改革とも逆行していくこととなりますので、まずは授業の中で確実に救っていくというところで、助言していきたいと思っています。

○委員

少人数だからといって、このポイントが減っているのかといったら、決してそうではないというところが見てとれます。少人数だからしっかりと指導できているかというところを見ていただきたいと思います。

小学校で、これだけ平均正答率が高いのに、中学校では平均正答率が下がっているというのは、中学校の教員の皆さんの指導力もあるし、子どもたちの難しい時期であるということもあると思います。そこは真摯に捉えていただいて、今後アドバイス等も含めて、しっかり教員の皆さんにお伝えいただきたいと思います。これは要望です。

○説明員

中学校の方も授業力が大分上がってきていて、最近、訪問するスタッフからは、中学校の授業が変わってきたという声を聞いております。

4者による学校評価アンケートを経年で示そうと思っていますけれども、子どもたちの満足度、それから、保護者の満足度も確実に上がっていると思いますので、授業力については中学校の先生方も努力しているということを一言つけ加えておきたいのと、併せて、小学校と中学校の開きは、学習集団が、小学校の学習集団と中学校の学習集団が変わってしまうということにも大きな影響があると思います。

つまり、87%以上の子どもたちが在籍していた小学校から中学校では52%程度の在籍率に下がってしまうという中での影響も少しあるのではないかなと考えてございます。それが全てでは

ないにしても、一つの要因としては考えられるのではないかというところをお伝えさせていただきます。

○説明員 補足ですが、今年度から全中学校で開始しておりますeラーニングシステムの活用で、9月末に報告された中では、学力調査の目標値より低い教科において、基礎及び活用の定着を図るために、週1回放課後に補習するという活用している学校もございます。今後、そういった取り組みも各校でなされると思っております。

○教育長 授業改善プランという、他の自治体にはない、素晴らしいものを作成したわけですがけれども、今回は東京都の学力調査ということで、学年が絞られているということでもありますけれども、この山の形を見て、策定した授業改善プランとの関係において、今後、さらに授業改善プランを改善していく方向はあるのでしょうか、ないのでしょか。それから、6ページの中学校の正答率が低い問題の理科の8の(3)の5.5%というのは、目黒区の中学生在が100人受けて5.5人しか答えられないということですよ。この問題自体がいかげなものかと思うのですが、その点いかがですか。

○説明員 授業改善プランの変更につきましては、ご指摘のとおり、目黒区は他の自治体に先んじて授業改善を、学習集団に応じて行っていくということで、各学級でその集団の学力到達度の山をもとに、授業を構成していこうという授業改善プランを作成しております。ですので、今回、5年生という学年が限られておりますけれども、改めてこういった集団の到達度の分布が届きましたので、これをもとに、6月に作成したものを変更していくということは、各学級で行うべきだと考えております。

それから、中学校のこの問題は、小学校よりも正答率は、低く設定されているという状況があります。これは学習内容が多くなるということと、子どもたちにとって苦手な部分を抽出するために、平均値を下げて難しい問題をつくらなければいけないという実態があります。そして課題を浮き彫りにするということです。

ただ、ご指摘のとおり、5.5%については、これは東京都が4.4%ですので、この問題としても課題がある可能性もありますので、分析させていただきながら、東京都に、必要があれば意見を申し上げていきたいと思っております。

○教育長 その他ご質問等ございますか。

特にないようでしたのでこの報告を受けました。

〔 資料配布  
・平成31年1月行事予定 〕

○教育長 以上で本日の定例会を閉会します。

(午前10時28分閉会)